

## 地震工学会

津波等の突発大災害からの避難における諸課題に対する工学的検討手法およびその活用に関する研究委員会

### 第5回研究委員会 議事録（案）

1. 日 時：2017年3月31日（金） 15：00～17：00
2. 場 所：日本大学理工学部駿河台キャンパス5号館523会議室
3. 出席者：有川、甲斐、後藤、小山（H）、仲村、村上（H）、山本（敬称略）
4. 資 料：
  - 資料 5-1 第5回研究委員会 議事次第
  - 資料 5-2 第4回研究委員会 議事録（案）
  - 資料 5-3 津波避難調査の文献整理に関する提案
  - 資料 5-4-1 多賀城市の東日本大震災津波被害状況に関する調査
  - 資料 5-4-2 避難シミュレーションを用いた避難経路の選択に関する研究
  - 資料 5-5 今年度予算について
5. 議事内容：
  - 5.1 第4回研究会議事録の確認
    - ・ 第4回研究会議事録（案）が承認された。
    - ・ 甲斐委員長から、鹿島財団への申請は採択されなかったとの報告があった。
  - 5.2 津波避難調査の文献整理
    - ・ 後藤委員から資料 5-3 の説明があった。
    - ・ 現在収集している文献には経路選択のアルゴリズムに関する文献が不足しており、補充する必要がある。
    - ・ 本委員会の成果として、各分野の相互理解を進めるため、この文献整理をとりまとめた。
    - ・ 津波避難シミュレーションが使われなくなっている。この原因としては、東日本大震災後に高まった津波避難に関する関心の低下、津波避難シミュレーションの結果は設定が困難な行動心理に左右されていて信頼できないとの認識が存在する、津波避難シミュレーションに頼らなくても結果を予測できると考える人がいる、等が挙げられる。
    - ・ 津波避難シミュレーションを普及するためには、有効性を明示する必要がある。
    - ・ 自治体担当者、市民が気軽に使える簡易なシステムができれば、避難シミュレーションの普及につながるのではないかと。
    - ・ 文献調査の担当を再度割り振り、早急にキーワード、要旨までの作業を進める。
  - 5.3 多賀城市の調査報告
    - ・ 後藤委員、仲村副委員長から資料 5-4-1 の説明があった。
    - ・ 宮内地区では流出戸数、全壊戸数と比べて死者数がとても多い。この理由を知りたかった。
    - ・ 東日本大震災以前は、洪水対策が多賀城市の防災の中心であった。
    - ・ 海が見えず、津波に対する防災意識は低かったと考えられる。
    - ・ 流出戸数、全壊戸数と比べて死者数がとても多い理由は明確でない。他地域から流れてき

た遺体が宮内地区の犠牲者とされていた可能性がある。

#### 5.4 中土佐町における活動報告

- 有川委員から資料 5-4-2 の説明があった。
- 中土佐町の協力を得て、避難訓練において 600 人（内津波避難タワー100 人）からアンケートを回収した。住民の大半が津波避難タワーへの避難を考えている。
- 最適避難経路の検証を進めている。
- 避難開始時間については、アンケート調査に基づいて設定する。
- 津波の挙動と相対的に避難経路を考える必要がある。
- 今後、避難誘導の方法を提案したい。

#### 5.5 今年度予算について

- 今年度予算の執行は 15 万円程度であった。
- 来年度の予算について、委員の皆さんに提案していただく。

以上